

# 概要報告

実施期日	7月28日(火)【午前】
部会名	小学校 社会部会

テーマ 『 だれもが興味を持ち積極的に授業に参加し表現できる社会科をめざして 』

## 提案概要

- ・第6学年 単元「明治の国づくりを進めた人々」について、「富岡製糸場」を重点的に取り上げ、授業を行った。
- ・明治以降の近代史に入ると、児童の興味・関心が薄れることが多い。どうしたら児童が意欲的に学習に取り組めるかが、課題である。解決の手立てとして、①体験できる授業 ②資料を活用して、当時の人々の思いや考えをイメージできる授業、を考え実践した。
- ・体験活動では、“生糸紡ぎ”を行った。その中で児童から、当時の人々の苦労を推し量る発言や、効率よく生産する方法、機械化を考える発言が出たので、児童の思考に沿って次時の殖産興業に繋げることができた。
- ・資料として、「工場内部の様子」や「富岡製糸場における労働環境」「給料と区分け」等を提示した。児童が初めて見る資料ばかりで、知識がある児童もない児童も、同じスタートラインから考えることができた。
- ・働いていた人の思いを吹き出しに書かせることで、児童は、当時の人々の思いに迫り、身近に考えることができた。
- ・児童が意欲的に学習に取り組んだことが、ワークシートや発言等から読み取ることができたが、一方で、資料の選び方は適切であったか、「富岡製糸場」の他にも良い題材があったのではないかと考える。

## 質疑概要

質問：他にはどんな体験活動を行ってきたか。

回答：布作り（江戸時代）。毛糸を解いて、一から作った。布（税）を納めるために民衆がどれだけ苦労したかを体験させた。蒸気を使ったおもちゃの紹介を行った（明治時代）。他にも様々行った。

質問：提案者が、いつから富岡製糸場に興味を持ち重点的に扱うことを考えたのか。

回答：教材研究をしている際に、興味を持った。

：明治時代について、当初は外貨を稼ぐ大変さを中心に学習を進めていく予定だったが、教材研究を進めるにつれ日本初の官営工場である富岡製糸場が殖産興業の中心としてどう位置づけられていたか、また、富国強兵に向かっていく日本にとっていかに重要なものであったかを知り、重点的に取り扱うことにした。

## 研究協議概要

次の2点を研究協議の柱とし、6グループに分かれ協議した。

### 1 より学習意欲を高める学習指導の在り方について

#### ◎視覚に訴える

- ・プロジェクターの活用。全員で資料を確認できる利点がある。
- ・ビデオ、NHKの映像番組、マンガの活用。導入に使うとイメージしやすくなる。また、おさらいとして使うと振り返りが容易にできる。
- ・図を見て、違いを見つける活動（維新前後の日本橋の絵の比較など）

#### ◎表現活動の工夫

- ・新聞作り。自分が興味をもった人物や出来事を取り上げ、新聞に書き発表する。
- ・人物相関図作り。 ・CM作り。

#### ◎体験活動を積極的に取り入れる。

- ・全てのグループから、児童の学習意欲を高めるために体験活動を実施するという意見が出た。
- ・ロールプレイング。例えばペリー役と天皇役など、異なる立場の人間を演じることで、心情や時代背景への理解が進む。

## ◎他の意見

- ・人物シールの活用。どういう人物だろうと子どもが興味を持つ。
- ・身近なものを取り上げる。
- ・予想してから結果を説明する。その際ギャップがあると児童が興味を持つ。
- ・ねらいをはっきりさせる。意図をもって資料を精選・提示しないと、児童は混乱する。焦点化させることが必要である。
- ・歴史の裏事情の紹介
- ・討論会を行う。

## 2 言語活動を充実させる年間を通した学年の取組について

### ◎話し合い活動

- ・ワークシートに人物の気持ちを書き、話し合う。
- ・グループで話し合う。その際、役割をそれぞれに与える。また、グループ分けをどうやって行うかも重要。
- ・討論会を行う。立場を決めると討論する意欲が増し、興味を持って学習を進められる。
- ・プレゼン形式。例えば信長になりきって、自分の味方につけばどういうメリットがあるかプレゼンをする。
- ・あなただったら、どうする？という投げかけに対し、それぞれの立場になって解決策を考える。
- ・グラフや資料を読み取り、発表をする。例えば、昔と今の資料を比較し、発表する。当時と今の生活の違いに気付き、時代の特徴をつかむ。その際、共通の資料を見ながら話し合いを行うことが重要である。
- ・ワールドカフェを行う。個人が他のグループへ取材しに行き、学んだことを自分のグループに持ち帰り、話し合う。
- ・ロールプレイングを行う。
- ・児童が自主的に調べたことを発表する。

### ◎書く活動

- ・新聞を書く。(人物なりきり新聞など) ・キーワードを使ってまとめる。
- ・キャッチコピーを考える。 ・4コママンガを描く。

## まとめ概要

- 今回の実践では、児童の興味・関心を引き出すことに成功している。また、富岡製糸場を殖産興業、富国強兵への流れにつなげていたことも良かった。
- 小学校指導要領解説社会編では各学年の目標に資料活用能力について記載されている。6年生では、「資料から必要な情報を読み取る」「複数の資料を関連付けて読み取る」ことなども求められている。教師から資料を提示する場合は、単元の目標をしっかりと見据え、資料から何を考えさせたいのか、資料の提示の仕方と時期は適切か、資料の価値はどうかを明確にした上で、意図的、計画的に提示することが必要ではないか。
- 言語活動の充実は目的ではない。ねらいを達成するための手段であることを、忘れてはいけない。
- 体験活動の充実も学習指導要領にも記載されており、社会科学習において重要な活動である。
- 体験活動には、観察・調査・見学も含まれる。
- 体験活動は、ねらいに迫るための手段であり、目標ではない。何を目的としてその体験活動を行うのか、ねらいを明確にする必要がある。
- 体験活動を楽しみだけで終わらせないためにも、事前事後の指導をしっかりと行うべきである。
- 体験活動を、単元のどこに位置づけるのか。  
(例) つかむ …課題を把握するために<体験活動>を行う。  
追及する…<体験活動>の際、インタビューしたり観察したりすることで課題を追求する。  
まとめる…学んだことを表現する活動も<体験活動>として位置づけることができる。  
(パンフレットにまとめる、新聞を書く、未来の車を想像し発表する)
- 全単元に体験活動を取り入れることは難しい。どこに重点を置くかを考え、軽重をつけることが重要である。